

学位論文の要旨

※ 整理番号	第2021-1	ふりがな 氏名	なかむら まさみち 中村 真通
学位論文題目	Effect of acupuncture on Alzheimer's disease in hospitalization - Focusing on behavioral psychological symptoms- (入院中のアルツハイマー型認知症に対する鍼治療併用の効果 -行動心理症状に着目して-)		
<p>【目的】 認知症の behavioral psychological symptoms of dementia(以下：BPSD)に対する鍼治療の効果は、軽症な患者を対象としており、とりわけ BPSD のどの症状に有効であるかは明らかになっていない。本研究では、認知症の患者・家族・社会的負担が高い医療機関に入院が必要な Alzheimer's disease：以下 AD)患者を対象に鍼治療を行い、BPSD に対する鍼治療の効果を検討した。</p> <p>【方法】 対象は埼玉精神神経センターの入院患者とし、患者、家族ないし本人の信頼する介護者に対し、文書と口頭でインフォームドコンセントを得たうえで行った。通常治療群 6 名と三焦鍼法をベースとした鍼治療併用群 6 名に分けて非ランダム化比較試験を行った。鍼治療は週 2 回の間隔で 2 か月間およそ 15 回行った。主要評価項目は、NPI-Brief Questionnaire Form (以下 NPI-Q) とした。統計解析には SPSS Statics 26 を使用し、線形混合モデル解析および Bonferroni 調整による post-hoc test を用い検討した。</p> <p>【結果】 解析対象全体の年齢の平均値(範囲)は 82 歳(76~91 歳)であった。NPI-Q(重症度、介護度)に群間差(交互作用)は認められなかった(p=0.75、0.72)。鍼群では、NPI-Q(重症度、介護度)は有意(p=0.03、0.04)に軽減した。さらに「興奮」、「うつ」といった心理面の症状の重症度 (p=0.04、0.04) 及び介護度 (p=0.03、0.09) も、鍼群で有意もしくは改善傾向を認めた。</p> <p>【考察】 AD 患者に対する鍼刺激や鍼灸師の介入により気分や不安など心理面を安定させ、BPSD の症状軽減につながったと推察された。入院中の AD 患者に対する鍼治療は、症状とその重症度によっては、非薬物療法の一選択肢となる可能性が示唆された。</p>			

- 備考 1. ※印の欄は、記入しないこと。
2. 学位論文の要旨は、和文により研究の目的、方法、結果、考察、結論等の順に記載し、800 字程度でタイプ等で印字のこと。
3. 図表は、挿入しないこと。